R431物語　第５回

今回の主人公：Ａ定食
（レストラン　アラスカ　松江市岡本町）

岩田英作

松江から宍道湖沿いに車を走らせ、松江フォーゲルパークのやや手前に、レストラン「アラスカ」がある。開業して今年で35年になる。私、Ａ定食はＢ定食とともにお昼の看板メニューだ。Ａ定食はラーメンと丼もの、Ｂ定食は地元の魚や野菜をつかった定食で、おなかをすかしたサラリーマンや家族連れに大好評だ。最近ではチャンポンも人気が出てきて、うかうかしていられない。

主人の福田栄吉（えいきち）さんは、松江市内の高校を卒業後、東京人形町にある老舗料亭でミシュラン三つ星にも選ばれた濱田屋で腕を磨いた。８年に及ぶ板場の修行で栄吉さんが身に付けたのは、たんにうまい料理をつくることだけではなかった。ある日早朝からひとりで仕込みにとりかかっていた栄吉さんは、「電気代がもったいない」と注意を受けた。「それならきのうのうちにやっておけ」。時の総理大臣をはじめ著名人も多く利用する高級料亭は、電気ひとつ、ガスひとつ無駄にはしない、細かな節約の上に成り立っていた。

昭和50年、松江に帰った栄吉さんは、弟の正光（まさみつ）さんと一緒に料理屋を始めた。福田の「福」と栄吉の「吉」をとって「福吉（ふくよし）」と名付けた。今も宍道湖の天然うなぎ料理が有名だ。うなぎのさばきは、関東が「背開き」で関西が「腹開き」。もちろん福吉は関東流の背開きだ。ただし蒸らしはしない。「特に天然うなぎは、蒸すと身がくずれるからね」。確かな腕と節約でお店は繁盛、稼いだお金をせっせと銀行に預けた。そのカウンターの向こうに後の伴侶となる世津子さんがいた。

福吉開店から５年後の昭和55年11月11日、いよいよ「アラスカ」オープンの日がやってきた。福吉のほど近く、和の福吉とは対照的な外観が目を引く。モーニングサービスの利用者も多く、喫茶店のようでもあるし、もちろん食事も私Ａ定食をはじめ充実したメニューをそろえ、こちらでも天然うなぎを賞味することができる。ところで、なぜに「アラスカ」なのだろう。私もアラスカの一員でありながら、ずっと気になっていた。

栄吉さんは笑いながらこう答えてくれた。東京で修行中のことだ。その頃のテレビ番組に、「兼高かおる世界の旅」というのがあってよく見ていた。ある回でアラスカが取り上げられ、「行きたいなあ」と栄吉さんは強く思ったそうだ。それでお店の名前が「アラスカ」となりました、チャンチャン。

アラスカは年中無休。栄吉さんと世津子さんは、アラスカと福吉を行ったり来たりの忙しい日々が続く。うなぎ漁で宍道湖にボートを出すのも仕事のひとつだ。「アラスカが終わらないと、アラスカには行けそうにないね」。私もそれまでがんばります！

（いわた・えいさく／総合文化学科教員＊日本近代文学）

（東出雲町上意東・畑地区）

のんびり雲　第８号　2014

巻頭エッセイ◉加冠の儀　安野光雅　1

特集◉山陰ほのぼの食堂

かまや（松江市）　2

たこ初食堂（浜田市）　7

徳平食堂（松江市）　12

武蔵屋食堂（鳥取市）　17

お食事処　大衆（奥出雲町）　22

丸豊食堂（鳥取市）　26

赤井食堂（米子市）　30

食堂本の紹介　35

食堂の思い出　38

こんなの食べられるの!?　野草大試食会　42

商店探訪⑨内村金物店（松江市）　47

さんいんびより　50

ギリシャだより　54

日の出湯の日々（米子市）　58

魅力発見！　出雲中町商店街　62

人々をつなぐ伝統神楽
雲南市大東町小河内社中を訪ねて　66

弦楽器の聖地をめざして
みささ美術館・ヴァイオリン製作学校　70

地域に根ざす、子どもたちのオーケストラ
倉吉ジュニアオーケストラ　74

枕木山華蔵寺での プチ修行体験　76

石見神楽には欠かせない横笛の工房　80
横笛ヒーロー社（江津市）

現地で味わう神話の世界
――舞台　黄泉比良坂――　84

街のおもしろ文化観察学入門　88
⑨浜田編

編集後記　92

Ｒ４３１物語⑤Ａ定食（裏表紙裏）

（表紙：一畑電車・一畑口駅）